

財務の概要　－2024 年度決算について－

1. 概要

2024 年度は、新病院棟建設や持続的な投資を可能とする財務基盤の強化に向けて、基本金組入前当年度収支差額 1,954 百万円を期初予算に計上しました。前年度に引き続き、不安定な国際情勢や円安進行による物価高騰、コロナ関連の公的支援の終了、人件費負担増などのマイナス要因が重なる中、医療収支の改善に加え、業務運営の効率化や経費コントロールへの取り組みを一層強化した結果、基本金組入前当年度収支差額は前年度比 1,346 百万円減の 2,730 百万円と表面上大幅減益となったが、コロナ補助金関連影響を除いた実力ベースでは、ほぼ前年度水準を確保する決算となりました。

2. 事業活動収支計算書（表 1・2 及びグラフ）

＜教育活動収支＞

① 教育活動収入

教育活動収入は 61,843 百万円となり、前年度比 659 百万円の減収となりました。

学生納付金は、薬学部の学生数減などの影響で前年度比 102 百万円減収となりましたが、教育活動収入の大半を占める西宮本院の医療収入は、外来患者数の減少、外来単価の下落があったものの、入院延患者数の増加、入院単価の上昇が寄与し、前年度比 785 百万円増の 45,521 百万円となりました。

一方で、経常費等補助金は、感染症対策に係る補助金が前年度比 1,240 百万円減少したため、2,401 百万円と前年度比 1,057 百万円の大幅な減収となりました。

② 教育活動支出

教育活動支出は 59,500 百万円となり、前年度比 736 百万円の増加となりました。

人件費は、看護職員の減少などによる負担減があったものの、処遇改善を目的としたベースアップの実施、退職給付関連費用の増加などにより、前年度比 232 百万円増の 23,826 百万円となりました。

教育研究経費は、減価償却額、奨学金などが減少したものの、修繕費、損害保険料、旅費交通費などが増加したため、前年度比 36 百万円増の 4,906 百万円となりました。

また、医療経費は、診療稼働水準の改善に加えて、物価高騰の影響による業務委託費や医療用消耗品費などの増加によって、前年度比 372 百万円増の 29,365 百万円となりました。

この結果、医療収支差額は前年度比 377 百万円改善して 19,857 百万円となりました。

＜教育活動外収支＞

教育活動外収支は、金利上昇に伴い借入金利息が増加したものの、有価証券の積み増しや運用利回り向上により受取利息・配当金収入が増加したため、前年度比 66 百万円増の 333 百万円となりました。

<特別収支>

施設設備に係る補助金や寄付金などの収入が減少したものの、一方で、固定資産処分差額が減少したことにより、特別収支は前年度比 3 百万円減の 93 百万円となりました。

3. 資金収支計算書（表 3）

資金収支については、支出（資産運用支出含む）が前年度比 22,642 百万円増加したものの、収入（資産売却収入含む）が前年度比 23,585 百万円増加したため、翌年度繰越支払資金（現金預金）は、2023 年度末 14,014 百万円より 672 百万円増加し、14,686 百万円となりました。

4. 貸借対照表（表 4）

2024 年度末の純資産（資産－負債）は、大幅な黒字決算を背景に前年度末比 2,730 百万円増の 92,403 百万円となりました。

資産の部は、建物・機器等の減価償却が進んだ一方で、新病院棟建設に伴う建設仮勘定や資金の効率的運用による有価証券等の増加によって、前年度比 10,295 百万円増加し 127,967 百万円となりました。

負債の部は、新病院建設費用の支払いに伴う借入金の増加等により、前年度比 7,565 百万円増の 35,564 百万円となりました。

なお、2024 年度末の総保有資金残高は、前年度比 6,383 百万円増の 47,699 百万円となりました。

5. 主要財務比率の推移（表 5）

表 5 にて財務比率の推移を表しています。比率の意味、主な留意点等を表の次頁に記載しています。

6. キャッシュ・フローの推移（表 6）

「教育研究活動」「施設等整備活動」「財務活動」の活動区分ごとのキャッシュ・フローの推移を表しています。それぞれのキャッシュ・フロー計算書は、他の会計基準とほぼ同様の区分等の手法を採用して作成しています。

以上